

「希望郷いわて国体」に向けた 選手強化について

第71回国民体育大会強化委員会事務局次長
(岩手県教育委員会事務局スポーツ健康課国体選手強化担当課長)

八木 浩之



平成28年の第71回国民体育大会は、平成24年7月に岩手県開催が内定し、「東日本大震災津波災害からの復興のシンボル」と位置付け、愛称を「希望郷いわて国体」と決定し、国体開催の募金活動がスタートしました。

第71回国民体育大会の選手強化事業については、東日本大震災津波災害の影響で、平成23年度事業は1年間停止していましたが、平成24年4月に(財)岩手県体育協会に岩手県教育委員会事務局スポーツ健康課職員が駐在し、県と県体育協会とが一体となった「第71回国民体育大会強化委員会(略称：国体強化委員会)」を新たに組織し、目標である「天皇杯順位8位以内入賞」に向かって強化事業を行っております。

選手強化計画につきましては、「各競技団体の組織体制の充実や関係団体との連携」「優秀指導者の確保とハイレベルな指導者の育成」「素質ある選手の発掘と育成・強化」「医科学サポートを中心とした支援体制の拡充」という4本柱を中心に強化を進めております。これらの強化事業を進め、国体終了後も高い競技水準を維持するための岩手型選手強化システムの完成を目指しております。

さて、平成24年に開催された第67回国民体育大会については、目標を天皇杯得点815点、順位30位台(第66回国体成績は715点、41位)として臨んだところですが、天皇杯得点790点、順位39位という結果でした。得点獲得競技数は40競技中19競技と第66回国民体育大会と比べると4競技の増加となりました。特に成年男子のサッカーやラグビーの団体競技の活躍が目覚しく、近年の課題である成年種別の競技得点は、ここ15年で最高の競技得点を獲得しました。しかし、少年種別の競技得点が伸びず、全体的な総合順位の伸びには繋がっていませんでした。

平成28年までの天皇杯順位の目標は、平成25年30位台、平成26年20位台、平成27年10位台そして平成28年8位以内入賞となっており、この目標達成のためには、得点できる競技、得点できる選手の拡大を図っていくことが必要となります。そのために平成25年度から「各競技の国体強化選手を対象にした重点強化」「国体強化拠点となるクラブの指定」「県内指導者の指導技術向上にむけた優秀指導者招聘」「医科学サポート拠点となる組織及び体制の整備」など、限られた期間の中で最大の効果をあげるための強化策を推進する予定です。

現在、各競技団体では、「成年選手の確保に向けた取組」「社会人クラブを再編した全岩手チームへの移行」「ターゲットエージ(希望郷いわて国体時の少年該当年齢)である中学生への集中強化」など、平成28年に向けて本格的な強化を進めている競技団体もありますが、反面、計画通りに強化が進んでいない競技団体もあり、その取り組み状況には温度差があるというのが現状です。平成28年に岩手県選手団が、各競技開催地で地元住民の熱い声援を受けながら大活躍することが、国体成功に繋がります。その成功のためには、各競技の目標を具体化し、「創意工夫」と「情熱」をもって選手強化を図ることが必要となります。

「希望郷いわて国体」は、岩手県全体がスポーツで活気に包まれる半世紀に一度の大会です。復興に向かう中で、国体開催の果たす意義は更に大きくなります。被災者の方々に元気と勇気を与え、岩手県全体に活力を生み出すためにも、関係者の方々と「チームいわて」として一致協力して国体選手強化を進めていきたいと考えておりますので、今後なお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。